兵庫・長尾沖田遺跡

1 所在地　兵庫県佐用郡佐用町佐用・長尾
2 調査期間　一九八五年（昭60）五月～八月
3 発掘機関　兵庫県教育委員会
4 調査担当者　大平　茂・村上賢治
5 遺跡の種類　集落跡・寺院関連遺跡
6 遺跡の年代　弥生時代中期～古墳時代前期、奈良時代後半～平安時代

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

遺跡の所在する佐用町は、播磨の西北端に位置し、歴史的・地理的に古来から交通の要衝（美作路・因幡路）である。

遺跡は、千種川支流の佐用川右岸、標高約一一〇mの台地上に立地している。また同台地西には、白鳳時代の創建と考えられる長尾廃寺の塔心礎が残存する。

（佐　用）

調査は、県土木道路改良

事業に伴う事前調査で、一九八三年に続く第二次全面調査である。

木簡と関連する遺構には、平安時代初頭の直線道路（現存長一七〇m、幅約三・五mでさらに北に延びるもよう）とそれに付設された溝（幅約一・五m、深さ約三〇㎝）がある。道路上面は、礫及び一部瓦片（長尾廃寺のもの）を敷き、低湿地部では丸太材を横にならべ、その上を河原石と土砂で被って構築している。

木簡は、低湿地部の道路西側溝から、多数の木製品・木片と共に出土した。その他出土遺物は、「川辺」「中殿」と記す墨書土器二点、斎串四点、木製鋤模造品一点、馬歯などがある。

8 木簡の釈文・内容

(1) ・「奴□□□毎里

・「□

(288)×(45)×3　019

(2) □□天マ×

(60)×(16)×5　081

(1)・(2)ともわずかに墨痕が残るのみで、肉眼判読は不可能である。釈読は、奈良国立文化財研究所鬼頭清明氏の御教示による。

9 関係文献

兵庫県教育委員会『長尾沖田遺跡現地説明会資料』（一九八五年）
同『ひょうごの遺跡　7号』（一九八五年）

（大平　茂）